

拝啓 今年も早や6月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、アジサイの水色の花が、梅雨時期に目を楽しませてくれています。

内村鑑三先生の『統一日一生』からの引用の3回目です。

今回の引用の中で、「3月12日」の文章は、内村先生の『後世への最大遺物』の講演の中の文章です。『後世への最大遺物』は、内村先生のもっとも有名な文章であるといってもよいと思います。結論として、誰でもが後世に残せる遺物は、「勇ましい高尚なる生涯である」と言っておられます。この文章は、元は明治27(1894)年7月に、箱根の芦ノ湖畔で開かれたキリスト教青年会の夏期学校での講演でした。明治27年は、日清戦争が終わったばかりであり、内村先生は、大阪、熊本と転々とした後京都に住み、最も貧困で、生活に窮していた時期です。その時の講演が、内村先生のもっとも有名な講演になって残っているというのですから、神の摂理を感じます。

6月11日には、香川県三本松で、南原繁シンポジウムが開かれ、南原研究会から、加藤節、樋野興夫、山口周三、吉馴明子の4人が出かけ、私は「南原繁先生のふるさとへの思い」という題で約30分講演をしました。

私は、この講演の最後で、私自身が南原先生から学んだこととして、次の事を話しました。

- ① do the nearest duty. 目の前に置かれた義務をなせ。小字に忠実なものは大事にも忠実である。
- ② 勇気。勇気とは、イエスをイエスと言い、ノーをノーということ。平和か戦争かの岐路に立つとき、平和にくみすること。
- ③ 志を立てよう。
- ④ 規則正しい生活。散歩ができる人は、散歩の習慣は大切。
- ⑤ 自分を教えてくれた学校の先生を尊敬しよう。
- ⑥ 本の先生を持とう。
- ⑦ 友情が大切なものだとすることを覚えておこう。
- ⑧ 信仰が大切なこと。
- ⑨ 人の悪口を言わない。
- ⑩ 手紙にはすぐ返事を書こう。

三本松ロイヤルホテルの会場で、280人もの方が聴いてくれました。

梅雨の時期、お天気が変わりやすい日が続きますが、皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

平成28年6月27日

山口周三

エンカウターの読者各位